

■藤原百川 公卿。権謀術数に長け、光仁天皇即位、山部親王(桓武天皇)立太子実現で、政界トップに立つも、早世。

ふじわらのももかわ
遣唐使9・・・732＝

渡来系の久米連奈保麻呂の娘若女を母に、式家藤原宇合の第八子に生まれる。

藤原四卿没・737＝5歳：疫病流行で父はじめ多くの公卿が死去。

・・・・・・・739＝6歳：石上乙麻呂に姦された母若女が下総国に配流となったことに衝撃受けたと考えられる。
藤原広嗣の乱740＝7歳：母は許されて入京したが、長兄の広嗣が挙兵して逮捕斬殺されたが、自身はまだ幼く不問に処された。
国分寺建設詔741＝9歳：

幼少から器度ありとされ、

・・・・・・・750＝18歳：

大仏開眼・・・752＝20歳：この頃には、従六位に叙されたと思われる。

聖武天皇没・756＝24歳：この頃、異母兄良継の娘諸姉を与えられ、結婚。出自低かった百川にとって、重要な庇護者となる。

万葉集最終歌759＝27歳：従五位下に昇叙、

押勝暗殺計画763＝31歳：異母兄良継が佐伯今毛人・石上宅嗣・大伴家持らと藤原仲麻呂の暗殺を企てた際にも、全責任を良継が負ったことで不問に処されて、智部(宮内)少輔を任じられ、山陽道巡察使・正五位下左中弁兼侍従・内匠頭・武藏介兼右兵衛督・左中弁兼内匠頭・右兵衛督・武藏守など、次々と異なる任務をこなして、一流の能吏たることを示して、称徳天皇からも信任を受け、

・・・・・・・768＝36歳：正五位上から従四位下に昇叙、左中弁兼中務大輔・内匠頭・武藏守となり、檢校兵庫副將軍などを経て、
宇佐八幡神託769＝37歳：天皇直属の内堅大輔を兼ねる。時に左中弁兼右兵衛督・内匠頭。和氣清麻呂が宇佐神教事件で配流されると、備後国の封郷二十戸を割いて配所へ送ってその功を称えるなど、道鏡に不信であったが、道鏡のために河内国に弓削宮が造営されると、河内守に任命されるなど、疑いは持たれず、由義宮行幸に供奉して従四位上を特授され、他の官職はそのまま河内大夫に任ぜられた。

光仁天皇・・・770＝38歳：*称徳天皇が崩じた後の立太子会議では、左大臣藤原永手、兄宿奈麻呂(のち良継)らの背後にあって、白壁王(のちの光仁天皇)を立太子させる宣命を偽作・宣制させて右大臣吉備朝臣真備に舌を巻かせたという。左中弁兼内堅大輔・内匠頭・右兵衛督で越前守を兼ね、次いで本官は右大弁にうつり、光仁天皇即位に伴って正四位下に昇叙。

東大寺完成・771＝39歳：左大臣永手没後、諸官はもとのまま大宰帥となる。この頃、百川と改名したらしい。*参議に起用される。出自が同じ渡来系の春宮山部親王に期待し、その病には医薬・祈禱に力を尽くし、

山部立太子・773＝41歳：*皇后井上内親王・皇太子他戸親王を廃し、山部親王(桓武天皇)の立太子に成功、政界一の実力者となる。

・・・・・・・774＝42歳：正四位上から、従三位に昇叙、

16遣唐使・・・777＝45歳：参議従三位式部卿兼右兵衛督となる。兄良継の死去後は光仁の信任が一層厚く、

・・・・・・・778＝46歳：右兵衛督から中衛大将にうつなど、要職を歴任して格勤を称せられ、内外の機務にはすべて関知したが、

・・・・・・・779＝47歳：参議中衛大将兼式部卿従三位で没した。